

令和8年度 第5回牧区地域協議会

日時：令和8年8月19日（水）

午後6時30分～

会場：牧区総合事務所301会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 報告事項

- (1) 市民の消火栓使用について・・・・・・資料No. 1

4 自主的な審議

- (1) あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について・・・・・・資料No. 2

5 その他（連絡事項）

- (1) 第16回えちご・くびき野100kmマラソンについて
- (2) 第2回持続可能な牧づくり地区別検討会の開催について
- (3) 上越市創造行政研究所広報誌の配布について
- (4) 次回会議の開催予定日について

6 閉 会

市民の消火栓使用について（お知らせ）

上越市防災危機管理部危機管理課

市では、消火活動には、日頃からの訓練の積み重ねに加え、消防資機材の適切な維持管理が不可欠であり、これらが十分に整わない状況では、重大な人身事故等につながるおそれがあるため、これまで市民による消火栓を使用した消火活動は適当でないとしてきました。

一方で、市民の皆様の「自らの地域は自らの手で守りたい」との強い思いに報いるために、市民の消火栓使用についての今後の方針を下記のとおりとするとともに、安全対策に向けた留意事項等及び使用までの流れを整理しましたので、お知らせします。

【今後の方針】

市民の消火栓使用について、安全対策などを講じた上で、
「使用できる」こととします。

1 安全対策に向けた留意事項等

別紙1をご覧ください。

2 消火栓使用（訓練）までの流れ（フローチャート）

別紙2をご覧ください。

3 その他

町内会には、8月5日（水）の「町内会長まちづくりの集い」において説明しました。

留意事項

【消火訓練】

- ・ 消火栓を使用した消火活動を安全かつ適切に行うため、町内会及び自主防災組織を実施主体とした消火訓練を年1回以上実施するものとする。
- ・ 消火訓練に当たっては、必要に応じて市、消防局（消防署）及び消防団からの助言を受けるものとする。

【消火活動】

- ・ 消火活動は、消火訓練を受けた者を含め、複数人で対応するものとする。
- ・ 消防局（消防署）又は消防団到着後は、消火活動等を一旦停止し、消防局（消防署）等の指揮・命令に従うものとする。

【消防資機材】

- ・ 消防資機材の調達及び管理は、町内会及び自主防災組織が自己の費用と責任において行うものとする。
- ・ 町内会及び自主防災組織は、消防資機材を適正に管理するとともに、点検を年1回以上実施するものとする。

訓練・点検等の内容の例示

【消火訓練の例】

- ・ 火災通報、避難誘導、交通誘導に関する訓練
- ・ 消火栓の操作に関する訓練
- ・ ホースの展張、結合及び離脱に関する訓練
- ・ 筒先（ノズル）の結合、離脱及び操作に関する訓練
- ・ 町内会及び自主防災組織内の連携・安全確保に関する訓練（放水始め・止めなどの声掛け、退避判断 ほか）

【消火栓を使用した消火活動の例】

- ・ 逃げ道が確保されているなど、安全に消火活動ができる状況で行う。
- ・ 消火栓を操作する人、ホースを展張、結合等する人、筒先（ノズル）を結合、操作等する人を決め、放水始め、放水止めなどの声掛けを行いながら、常に連携し行う。
- ・ 消火活動の際は、火災現場周辺の環境や交通状況等に注意を払いつつ、事故や二次災害に注意し行う。

【消防資機材の点検例】

- ・ ホースは使用できる状態か。
- ・ 筒先（ノズル）は正常に作動するか。損傷はないか。 など

災害補償及び共済制度

- ・ 火災現場において、民間の協力者が消防作業等に協力したことにより、死亡、負傷等した場合は、新潟県市町村総合事務組合が行う公務災害補償により補償される。
- ・ 町内会及び自主防災組織が地域内で実施する訓練（消火訓練・避難訓練・防災訓練）に対しても、公益財団法人日本消防協会の防火防災訓練災害補償等共済制度の対象になる。 ※対象となるためには「自主防災訓練等実施計画書」の提出が必要



市への相談

- ・市民が消火栓の使用を考えている場合、まずは危機管理課に相談
※消火栓を使用する場合、消火活動に必要な消防資機材の準備と定期的な訓練、複数人での対応が必要なことなどを伝える。

消防資機材の準備

- ・消火訓練に必要な消防資機材（消防ホース、筒先（ノズル）、ヘルメットなど）を、町内会及び自主防災組織で準備
※市では、消防資機材の調達及び管理に対する補助等を行わない。
消火訓練を実施する町内会及び自主防災組織が自己の費用と責任で準備を行う。

年1回以上、消防資機材の点検と消火訓練を実施

訓練計画の作成

- ・日時、場所、参加者を決める。
- ・必要に応じて、市や関係機関（消防団、消防署、ガス水道局、警察署など）等との調整を行う。

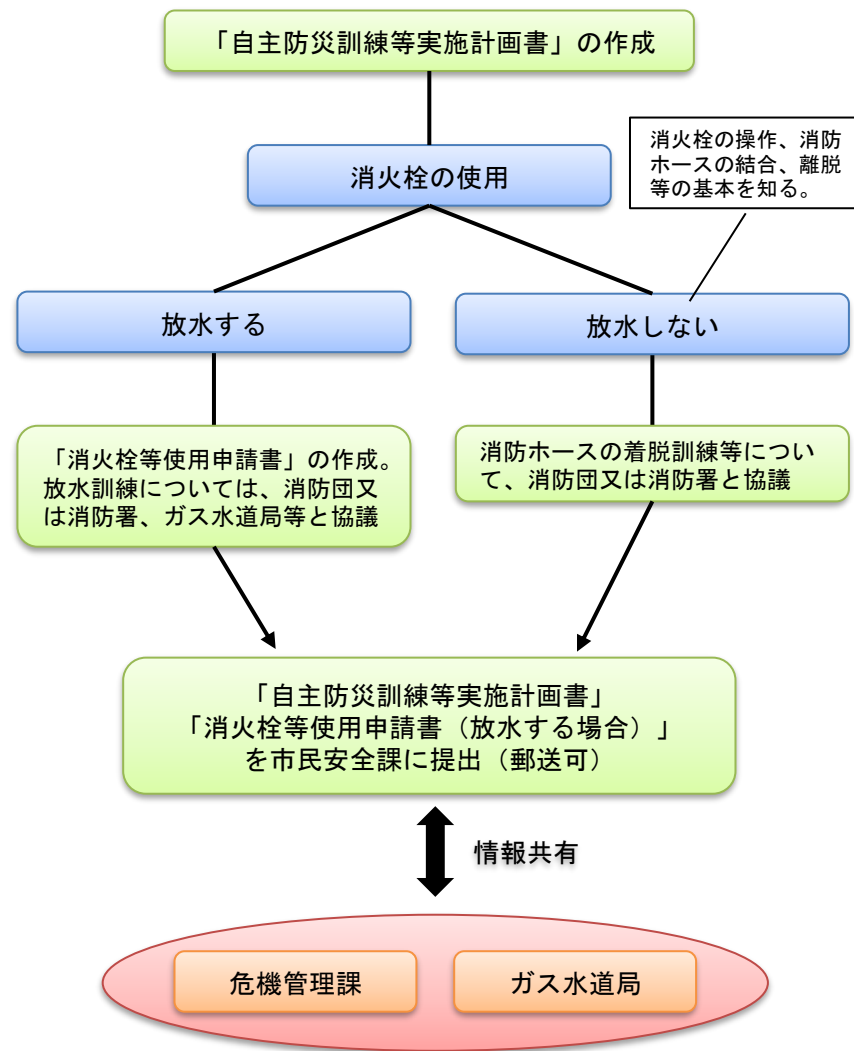
各種申請等

- ・「自主防災訓練等実施計画書」「消火栓等使用申請書（放水する場合）」を市民安全課に提出
- ・訓練に当たり道路を使用する場合、道路使用許可申請書を警察署に提出
※計画書及び各申請書は、訓練実施日の概ね2週間前までに提出

点検・訓練の実施

- ・訓練は、原則、消防団又は消防署が立会いの上、留意事項等を確認し、実施する。

■「自主防災訓練等実施計画書」の提出までの流れ



第2回

持続可能な牧づくり地区別検討会

～あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」～

令和8年8月20日(木)

次 第

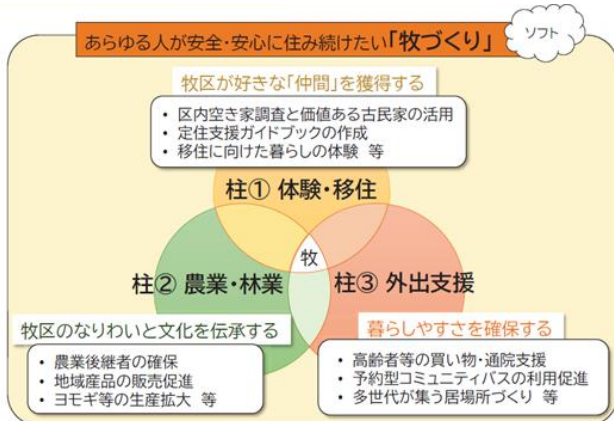
1. 開会のあいさつ 上越市創造行政研究所 藤山所長
2. 趣旨説明 牧区総合事務所
3. 検討会
4. グループ別発表
5. 感想 上越市創造行政研究所 藤山所長
6. 閉会のあいさつ 牧区総合事務所 小林所長

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に向けて ～話合いの進め方～

令和3年度～令和7年度

議論の開始・展開

- 牧区地域協議会において「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』について」自主的審議を開始
- 主要な地域課題として「体験・移住」、「農業・林業」、「外出支援」の3つを挙げ、各種取組を展開



令和8年4月～8月

今後の取組方向性を話し合う

- 地域協議会における議論や各種取組の展開をさらに広げるため、上越市創造行政研究所のサポートを受けて「持続可能な牧づくり」検討を開始
- 4月 第1回地区別検討会
- 6月 二地域居住推進セミナー
- 7月 地域住民の声を聴取

8月 第2回地区別検討会 (本日)

これまでに出了された様々な意見から、
どのような取組が必要かを話し合う

令和8年9月～

持続可能な牧づくりに向けて

- これまでの話合いに基づき、持続可能な牧づくりに向けた今後の取組方向性を見出し、地域全体で共有する
- ～10月上旬を目途～

方向性に基づく取組を
できることから、
できる範囲で、
展開していく

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に向けて ～第1回地区別検討会での主な意見～

地区名	地域資源	①困っていること(弱み)	②頑張っていること(強み)	③始めたいこと
川上地区	水を汲みにくる人がいる 標高が高く星がきれい 人がやさしい 写真撮影のスポット 美しい田んぼ 山菜 種類が多くうまい 牧湯の里深山荘	イノシシ、シカ、クマ 1人暮らし 冬の暮らし 空き家が多い 冬の雪が重い(倒木につながる) 担い手不足 ハンターがいない 買い物難民	棚田テラス 泉の棚田きらめき てるちゃんラーメン コサクレム・山のホームサ 道路の除雪が良い バスがきてくれる(平日) 橋詰石油	草刈り会(お小遣い) おこさま集会100人(お盆) 山菜番付をつくる バイカー用カフェを開く 体験ツアー お茶飲み会 花を植えたい ヨモギ集荷
原地区	おいしいお米が取れる 有機肥料を使っている 耕作放棄地の増加 牧峠の紅葉 天下一 八風沢 人面岩 イヌワシ 中山間地域の割には市街地に出 やすい、人がやさしい	人口減少(空き家あり) 農地(水田)維持が困難 災害リスクの増大 用水路の管理が大変 有害鳥獣の増加 水田跡の活用が課題 役員固定何でもやらされる	除雪は最高に良い 困ったとき心配して声をかけてく れる お年寄りの知恵 屋根雪 弱いところ に雪を下ろす こわれないように 雪を下ろす くるみやカフェ	休憩所が点在するとよい 牧の水 ペットボトルで売る 家が売れたらいい！！ 空家を都会の若者に貸す！ 天然の水の美味しさを広める！！
白峰地区	地域の人達が良い人ばかり 移住者と地元民の距離が近い 四季がある 自然が豊か 山菜 溪流釣り 交流事業が盛ん	地域行事や作業負担が大 空き家バンクに登録した物件が売 れない 古民家(空) 用水路がない 医者が遠い 除雪が大変 バスが少ない	ほほえみ荘 外部の若者の受入 桜滝:棚田がきれい 深山荘 鷹羽鉱泉	水稻以外も育つ いろんな作物の挑 戦 バックホウのアタッチメントで草刈 りにチャレンジ！ 大根神社 つくってほしい(神輿)
沖見地区	棚田が美しい 見晴らしが良い 妙高山がきれい ふるさと村での灯の回廊 昔 牧場があった 東頸城の霧の風景・絶景	クマ出没！！イノシシも 雪が多い 孤立する 除雪に苦労する 無人販売所がない 農地の維持管理が大変 道がわからない標識ほしい 店がないハンターがいない	カメラマンが訪れている ふるさと村の桜がきれい(でも今 年はイマイチだった) アスパラガスが美味しい 良質な山菜	花いっぱい沖見にする 雪を観光資源にする 滝しぶきのながめが良い 神谷の遺跡 シャトルコースで何か 建てて！
牧地区	景色が良い(棚田とか) 田んぼや川が美しい 山菜がたくさん採れる 夜桜祭り 雪の景色が美しい 牧区の水がおいしい 人が良い！！あたたかい	人数不足で草刈りなど中止になっ てしまう イノシシ、シカ、サル、クマ 高齢化による人口減 交通の便が悪い 子どもが少ない 空き家がそのまま	てるちゃんラーメン、イマココ くん炭アート デマンドバス 時間に正確 道路の除雪は日本一 Aコープの食料品充実 診療所、先生・スタッフ◎	小中学校、保育園の今後の活用に 注視したい 中学校 校舎の利活用(暮らしの中 での利活用) 総合事務所のある所を拠点に集合 住宅の具体的検討

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に向けて ～各種団体等との意見交換～

牧区地域協議会での意見交換 (令和8年6月17日)

Aグループ

イノシシやクマの出没や草刈り等の人手不足といった課題を共有し、水のおいしさや自然環境などの強みや、診療所など生活インフラの重要性を確認した。地域の困り事について、まずは1つでも解決策を考えることから始めていきたい。

Bグループ

空き家や有害鳥獣、担い手不足などの課題が指摘された。一方で、グリーンツーリズムやお試し体験、地域おこし協力隊活動等を参考に、外部との交流や連携を通じた地域の良さを生かした取組が重要なのではないかと認識が深まった。

Cグループ

担い手不足や若者の減少により集落の維持が困難となっている状況を共有した。牧区内飲食店やイベント等のPR、地域資源の活用による地域活性化の提案や、若者の交流促進、花植えによる観光拠点の創出等の意見が挙がった。

地域住民の意見聴取 (随時)

運転免許返納による生活全般の不便感

車を廃車するときに運転免許も返納した。買い物は近所の人に頼んで連れて行ってもらっているが、車が無いのはやはり不便。野菜を取りに行くにも自分で行けないので、知り合いの人に頼んでいる。

デマンドバスは便利で、診療所への通院やJA店舗への買い物で利用している。

集まる機会が少なくなっている

かつてはお茶飲みで集まったりしていたが、住んでいる人が少なくなり、歳をとったので今は集まりができていない。移動販売車が来たときは人が集まって顔合わせができるので、その時に話をしている。

近所の人付き合いが助かっている

冬の屋根雪除雪は近所の人やってくれている。買い物はデマンドバスや宅配サービスを利用しているほか、近所の人や乗せていってくれる。お茶飲みも声をかけてくれるので、とてもありがたい。素直に、できないことはできない、助けてと言えている。

農業者有志との意見交換 (令和8年7月23日)

「農業」と「集落」は密接であるが...

かつては集落の全戸が農家であったが、今はわずかになった。一度農地を預けると「自分はもう農業に関係ない」という気持ちになってしまい、用水や農道を管理する負担が一部の人に偏ってしまう。農業と集落は密接につながっている。

農地を引き受けてもらえる安心体制の整備

今は農地を引き受けて守っているが、自分が病気やケガでいざ出来なくなったときに、誰が引き受けてくれるのか。頼れる駆け込み寺のようなサポート体制があれば、安心して田んぼを続けていられる。

受け入れる側の期限も近づいている

農業者は高齢化が深刻であり、外部から人材を呼び込むにも、指導する人自体が限界を迎えつつある。意欲ある若者がいたとしても、地域自体がそれを支える時間的な余裕がない。

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に向けて ～話合いの進め方～

① 牧区で住み続けるために 大事にしたいこと 課題だと思うこと	② このまま5年後、10年後を迎えると どうなるでしょうか	③ どのような状態になっていると良いか	④ そのために必要な取組は何か	⑤ (例えば)どんな人、団体が関われば良いか
前回の検討会やこれまでの意見交換から、 「牧区で住み続けるために」大事なこと、課題だと 思うことを現状とともに書き出してください	避けたい未来 ①で挙げたことが、このまま5年、10年と経過したら、 どのような状態になってしまうか、 そのイメージを書き出してください	望ましい未来 ①で挙げたことが、どのような状態になっていけば、 牧区で住み続けられるようになっていくか、 そのイメージを書き出してください	必要な取組 ①で挙げたことが②の状態になることを回避し、 ③の状態になるためには、どのような取組が必要か、 書き出してください	④の取組はどのような人、団体が関わっていけば良いか、 書き出してください

あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に向けて ～話合いの進め方～

例えば、このように意見を出し合いましょう

牧区で住み続けるために 大事にしたいこと 課題だと思うこと	このまま5年後、10年後を 迎えるとどうなるでしょうか	どのような状態になって いると良いか	そのために 必要な取組は何か	(例えば)どんな人、団体 が関われば良いか
農業の後継者 がいない 棚田米、そば は人気がある 豪雪地ならではの きれいな水 豊かな森林 資源が手つかず	後継者がなく、 農地が荒れ果てる 美味しいお米やそば が食べられなくなる イノシシやクマが 出没しやすくなる 山が荒れて災害を 防止しにくくなる	後継者がいて、 農地が守られている 棚田米やそばが 特産品として根強い ファンが付いている 山の手入れが行わ れて広葉樹が広が り、山菜も豊富	後継者として農業を したい移住者の確保 棚田米やそば、 山菜の販売促進 営業力のある 人材の確保 棚田や森林を大事 にするファンの確保	〇〇 農業関係団体 〇〇

☞ 話合いの中で出された意見をまとめ、今後の取組方向性(案)として整理します

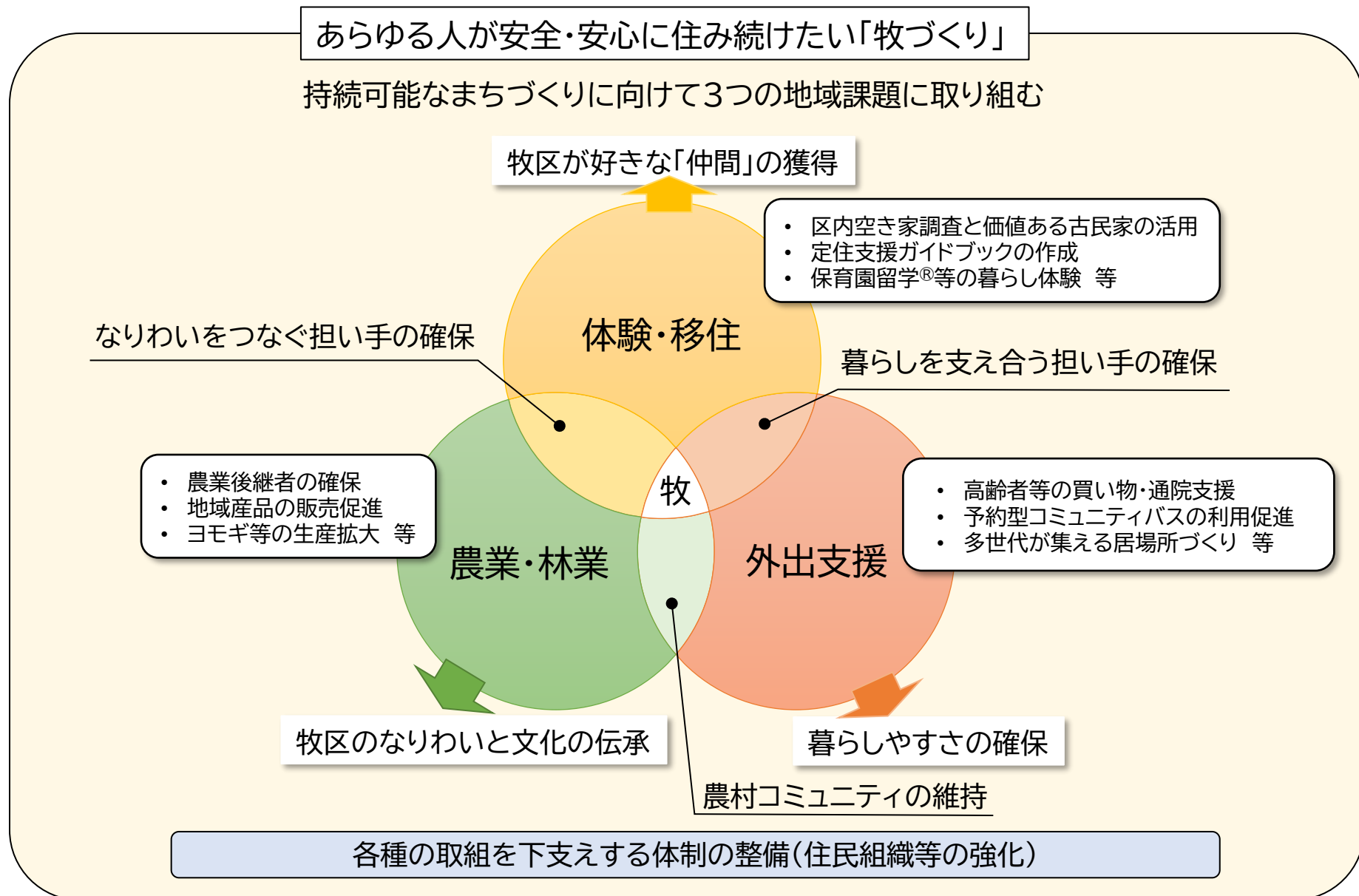
《進め方》

- ① まず、グループで話し合った内容を発表する人を1人決めてください。
- ② グループに着いた職員が話合いをお手伝いしますので、皆さんは自由に意見を出し合ってください。
- ③ お手洗いなどの休憩時間は特に設けませんので、自由に休憩してください。また、他のグループではどんな意見が出ているか、自由に見て回ってもかまいません。

《話合いの約束事》

- みんなの意見を尊重して、否定や批判ばかりしないようにしましょう
- 自分ばかり話さず、みんなで意見を出し合えるようにしましょう
- 「そんなことはできるはずはない」より、「どうやったらできるだろうね」「こうなると良いよね」という前向きな考え方で意見を出しましょう

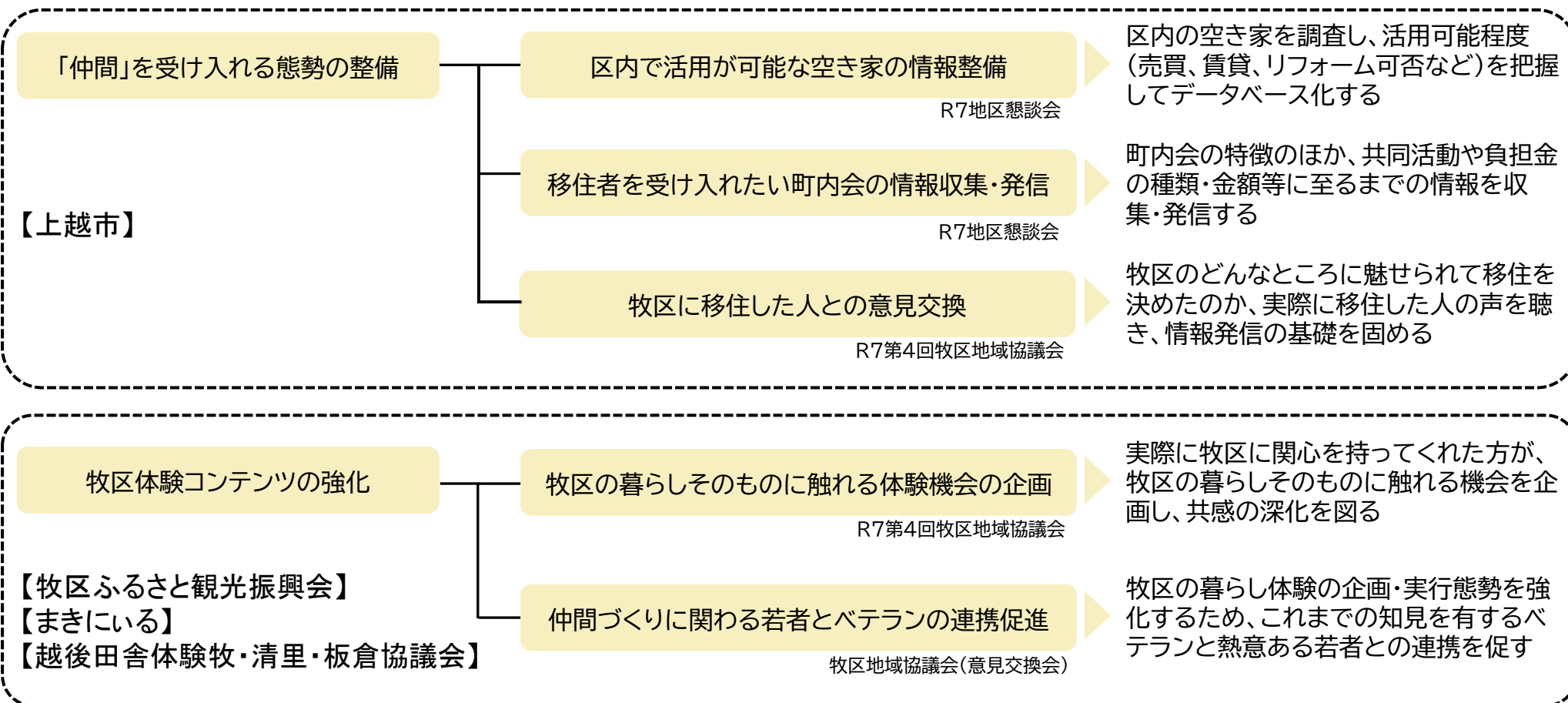
【参考資料】牧区地域協議会自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について



【参考資料】牧区地域協議会自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

体験・移住

これまでに見出された具体的な取組



定住支援コーディネーターと集落づくり推進員の連携による情報収集や地域の活動支援

【参考資料】牧区地域協議会自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

農業・林業

これまでに見出された具体的な取組

農業後継者の確保

おためし農業体験の受入れ態勢強化

R7地区懇談会

農業後継者の確保につなげるため、牧区をフィールドにしたおためし農業体験の受入れ態勢を強化する

【主要な農業者等】

農地・山林のおためし貸与による活用の研究

第4回牧区地域協議会

牧区にある農地や山林をおためしで借り受けたい人を募集し、活用してもらうための方策を研究する

農林業収益力の向上

地域特産品のブランディングとPR促進

第4回牧区地域協議会

棚田米や雪太郎大根、雪下キャベツ、メープルシロップ、ぴりっ子などの特産品とともに、牧区内に自生する資源を掘り起こし、牧区ブランドとして販売促進するほか、ふるさと納税返礼品登録を推進する

遊休農地の利活用

ヨモギや山菜の栽培拡大

R7地区懇談会

需要が旺盛なヨモギや人気の高い山菜を栽培拡大するための態勢を整え、収入確保と農地保全の推進につなげる

【主要な農業者等】

【農業委員会】

イタヤカエデが植栽可能な土地の調整

牧区地域協議会

耕作放棄地となった農地でイタヤカエデの植栽に適した場所について、そのための土地利用調整を行うほか、植林によるカーボンクレジットの取組を研究する

中山間地域元気な農業づくり推進員やJA・県普及センター等関係機関・団体との連携

【参考資料】牧区地域協議会自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

外出支援

これまでに見出された具体的な取組

気軽に外出できる支え合い体制づくり

【特定非営利活動法人牧振興会】
【上越市】

高齢者の幅広いニーズに応じた外出支援

牧区地域協議会

特定非営利活動法人牧振興会が実施している高齢者の買い物支援を多方面に展開するための研究・協議を行う

ご近所で一緒に出掛ける支え合い体制づくり

第4回牧区地域協議会

ご近所の高齢者と温浴施設などと一緒に出かけの機運を高めるとともに、取り組む人への支援策を研究する

【上越市】

予約型コミュニティバスの利用促進

R7地区懇談会

予約型コミュニティバスをもっと気軽に使えるよう、実際の利用例などをPRし、高齢者以外の人への利用促進を図る

みんなで集える居場所づくり

【上越市】
【公民館】
【特定非営利活動法人牧振興会】

小学生・中学生・高校生の居場所づくり

第4回牧区地域協議会

学校帰りなどで家族の迎えを待つ間、自習や友人との交流などができる「学生の居場所づくり」を研究する

気軽に集まれる地域の茶の間づくり

R7地区懇談会

高尾集落で行われていた「お茶飲み散歩」のように、気軽に誰もが参加できるお茶飲み会の実施について研究する

集落づくり推進員や住民組織、公民館等との連携による情報収集や地域の活動支援